

# 神奈川県海外技術研修員受入事業

## (JICA 草の根技術協力事業 (地域提案型) 分) 研修報告

2013年02月12日

氏 名 王 子江

勤務先 遼寧省疾病予防コントロールセンター

- 1 研修コース名  
公衆衛生分野における人材育成事業
- 2 研修期間  
平成 24 年 11 月 15 日～平成 25 年 2 月 14 日
- 3 研修機関  
衛生研究所
- 4 研修の概要

私は 2012 年 11 月 15 日～2013 年 2 月 14 日期間中に JICA「公衆衛生分野における人材育成事業」プロジェクトを通じて、日本国神奈川県衛生研究所で三か月の研修を行った。

今回の研修は遼寧省における公衆衛生状態の改善を上位目標にし、個人の感染症検査能力を向上させることを研修目標にしている。呼吸器病原体の検査技術を学習・マスターし、重点的にインフルエンザウイルスの検査方法を勉強した。同時に呼吸器細菌に関する検査技術も学習した。そのほかに研究所以外の外部見学を通じて、日本公共衛生組織の構成、感染症予防対策とサーベランスシステムを理解することができた。さらにそれらを通して日本国民の健康水準を知ったことは遼寧省感染症予防業務の参考にもなった。

今回研修期間中に神奈川県衛生研究所は研修要求に基づいて合理的で詳細なカリキュラムを用意してくれた。専門指導講師の真剣で責任を持った指導のもとで、多くの詳細な講義と自らの操作・作業を通じ、研修目標を円満に達成できた。

### 5 重点的に取り組んだ課題

今回の研修の重点は呼吸器病原体の試験室での検査技術を学習・マスターすることで、特にインフルエンザウイルス、A 型溶血性レンサ球菌など呼吸器病原体に対する検査方法を学習することを通じて自分の検査能力を向上し、習ったものを遼寧省感染症予防制御業務に活用して遼寧省公衆衛生試験室の検査レベルを向上させることであり。研修の中で日本の感染症サーベランスシステム、公共衛生組織の構成などの関連情報についても詳しく理解することができた。

今回の研修で学習・マスターした内容：

1. 呼吸器ウイルス（インフルエンザ）の検査方法。
2. 呼吸器細菌（A 群溶血レンサ球菌、肺炎マイコプラズマなど）の検査技術。
3. 日本感染症（インフルエンザ、A 群溶血レンサ球菌など）のサーベランスシステムについての理解。
4. 感染症情報収集、調査、分析の方法。
5. 日本公共衛生の仕組み（日本の保健所、衛生研究センターの見学）。

解決の必要がある問題点：今回の研修を通じて日本の先進的な検査技術を習得した。修得した実験室での検査技術の大部分は当省で利用できる。だが、やや残念なのは設備・経費がないという客観的な条件の制限によって一部先進的な技術はしばらく操作できないことである。

## 6 評価（研修全体を通じて学んだこと・感想など）

中国は発展途上国である。経済など多くの原因により公衆衛生事業は日本などの先進国と比べてまだ一定の差がある。本研究を通じて先進的な検査技術についてさらに深く認識することができたと同時に通常の検査方法も修得することができた。自分の検査能力を向上させたと同時に遼寧省 CDC の検査能力も向上させた。

以上の研修を通じてインフルエンザウイルスの検査方法を習得し、検査の精度を高めたと同時に関連する細菌の検査技術も勉強し視野を広めることができた。

研修中に指導の先生は辛抱強く、詳しく説明してくれた上、普段の作業中に積んだ経験や容量を一つ一つ伝授してくれた。このような経験を習得したのはもっとも重要な収穫になった。

今回の研修中に日本人の勤勉・謹厳な仕事ぶりに深く感心していた。仕事に対し真剣で、責任感がある。このような態度は帰国後の私の仕事に大きく影響していく。私も改めて自分の仕事目標を見直し、当省の市民の公共健康に努める。

## 7 アクションプラン（研修の成果をどのようにして活かしていくか）

技術を習得し、さらに合理的に業務に応用するため、下記の通りに計画：

1. 研修内容を詳しくまとめ、遼寧省 CDC の責任者に報告する。
2. 今まで来日し研修した同僚と技術交流を行い、習った知識を強化する。
3. 修得した技術を遼寧省 CDC のスタッフに伝授する。
4. 中国の現在の公衆衛生状況に合わせて経験豊富な試験室の技術者と検討し、習った技術を必要に応じて合理的に遼寧省 CDC の日常検査業務に活用する。

5. 全省試験室検査技術勉強会で講義を行い、全省 CDC（市、県レベル）試験室の検査能力をアップさせる。
6. 市、県 CDC、特に末端のスタッフに対し現場指導をする。

## 8 報告会の概要

報告会は PPT の形式で三か月間に修得した研修内容について総括して報告した。詳細な内容は下記の通り：インフルエンザウイルスを含む検査技術（細胞培養、HA と HI 実験、PCR 方法、DNA シークエンスなど）、A 群溶血レンサ球菌と肺炎マイコプラズマの検査技術（分離培養、血清学同定、PCR 検査）。そのほかの呼吸器細菌ウイルスの検査技術（コクサッキーウイルス、レジオネラ菌、結核菌）についても理解することができた。日本福祉保健所（横須賀市、小田原市）、衛生研究所（国立感染症研究所、静岡市、東京都）及び神奈川県立福祉大学などの見学研修も行った。そして日本研修期間中の経験についてもまとめた。例えばペットボトルやマジックペンの活用など日常業務の中で普及すべきである。

## 9 日本での生活について（日本の文化や自然に対する感想など）

それほど広くない道路だが、清潔で綺麗。ゴミでさえ分類後に整然と並べられている。きれいな町で、道路で歩いていてとても気持ちがいい。

日本は中国ほど賑やかではない。静かと形容してもいいほどで、騒がしい大声がない。電話をする時でさえ他人に影響しないようにとても小さな声で話す。三か月の研修生活の中で私は気が付いたのだが、ほとんどの人はみんな携帯をマナーモードに設定していた。

我を忘れさせるほどの自然風景。日本の文化古跡は依然として良好に保存されている。地震が多い国でここまでできることに驚きを隠せなかった。

最後に、最も印象深かったのは日本人の暖かい友情である。助けが必要の際にはいつでも、どこでも、たとえ全く知らない日本人であっても必ずベストを尽くして助けてくれた。

美しい富士山、美味しいお寿司、友好で親切な日本人によって彩られた私の三か月の日本生活。時間は短かったけれども、私は心からこの美しい清潔な国が好きになった。